

教職員のみなさんへ

福岡県教育委員会



福岡県では、教職員の超過勤務縮減に取り組んでいます！！

「教職員の健康増進・ワークライフバランスのとれた生活、子どもと向き合う時間の確保」を目指します。

『教職員の働き方改革・業務改善』に関する情報を県のホームページで発信します。

これまで県が実施してきた取組や新たな取組などを、県のホームページで発信していきます。

ぜひ、みなさんの超過勤務縮減にお役立てください。

福岡県 教職員課



教職員課のページの下段にある『教職員の働き方改革・業務改善』をクリックしてください。



毎日帰りが遅くなっていませんか？

メリハリのある勤務を実践することで心身のリフレッシュや業務に対する意識改革が期待できます。

『定時退校日を実践しましょう。』

(実践のポイント)

- ・職員相互の声かけや、管理職、主幹・指導教諭の方が率先して退校することで、定時退校しやすい雰囲気をつくりましょう。
- ・定時退校日に退校できなかった方は、代替日を設定しましょう。



『業務を改善しましょう。』

(改善のポイント)

- ・緊急度や重要度、業務量を考えて計画的に作業しましょう。
- ・資料作成は最小限としましょう。(完璧を追及しない。)
- ・「〇〇時までには帰る」など帰宅時間の目標を決めましょう。
- ・学年・学科単位などで業務改善を話し合しましょう。

『年次休暇等を取得しましょう。』

(取得のポイント)

- ・定期考査中など会議や研修が設定されない日や長期休業期間中には、積極的・計画的に取得しましょう。
- ・管理職の方は、取得日数が少ない方に対して取得を促しましょう。

『学校における業務改善の成功のカギについて』

(1) 意識改革の重要性

職員一人一人が効率的に業務を遂行する意識を持つことが重要。「意識」が無ければ小さな無駄や非効率には気が付かない。小さな改善の積み重ねこそが大きな成果を生み出す。自らの業務遂行に当たって、ぜひこの「小さな改善」を行っていただきたい。

(2) 組織の一員としての意識

多くの教職員は「教育者」として子どもたちのためには労を惜しまないというプロ意識を持っているが、その一方、個人の仕事と考える方が多く、組織の一員としての意識が希薄な面もみられる。教育の専門家であると同時に、組織としての業務遂行についてもより意識することで学校全体の業務効率化につながる。

(3) 業務時間の「見える化」とタイムマネジメント

業務時間を数値で把握し、その上で、例えば「〇〇に係る時間を30分削減する」といった目標値を定める。目に見える形で成果が出れば、次の改善へのモチベーションにつながる。

(4) 業務改善活動を成功させるための4つのカギ

- ① 改善目標の明確化
- ② 校長のリーダーシップ
- ③ 業務改善を継続する仕組みづくり
- ④ 感情判断が先行すれば業務改善は成功しない



※ 上記のポイント（カギ）は、平成28年度に学校現場で実施した実践研究における中小企業診断士の意見（抜粋）です。研究報告書は県のHPに掲載していますので参考にしてください。



冒頭で紹介した県のホームページには、実践研究の報告書をはじめ、様々な業務改善の取組をまとめた『公立学校における教職員の超過勤務縮減に向けた業務改善ハンドブック』なども掲載しております。

ぜひご活用ください！！